



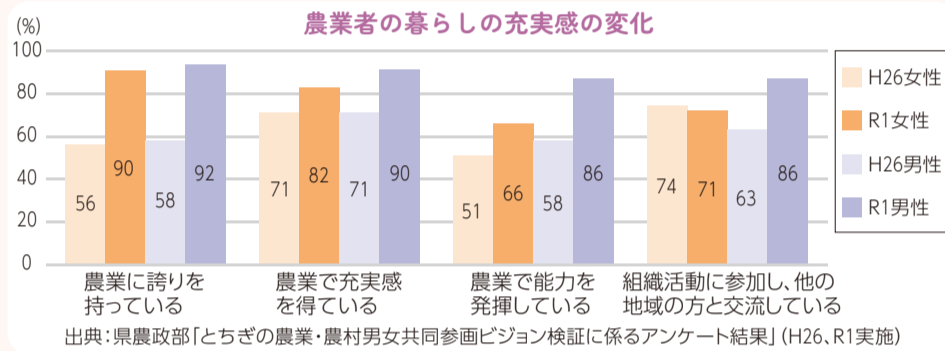
新たなチャレンジで 輝くわたしの農業

県内で主に農業に従事する約43,000人の内、約4割が女性農業者として活躍しています。少しずつ増えている女性の新規就農者。女性農業者が栽培に携わるだけでなく、女性ならではの感性やアイデアを農業経営に生かすことができるよう、県ではさまざまな取組で応援しています。今回は県の取組と活躍する女性農業者の声をご紹介します。



農業者が考える“農業”は満足度の高い仕事！ 一方男女間で差も

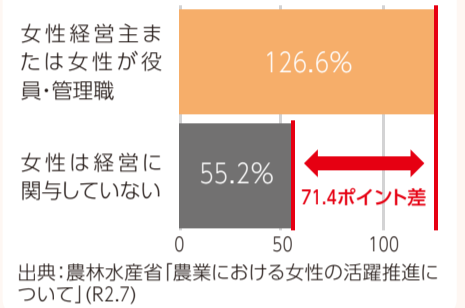
「農業に誇りを持っているか」など、男女とも5年前の調査値よりもほとんどの設問で増加しており、高い満足感を得ていることが分かります。その一方で「農業で能力を発揮している」「組織活動に参加し、他の地域の方と交流している」の設問では、男女のR1調査値を比較すると10ポイント以上の差が見られます。



女性の力が収益をプラスに！ 経営にも関わることによって伸びる収益

国の統計によると、女性が農業経営に関わっている経営主体ほど収益力が向上しています。これは、女性目線で消費者ニーズを敏感に感じ取り、「6次化」や「営業・販売」などにうまく生かすことができている点が要因だと考えられます。

女性の経営への関与別 経常利益増加率

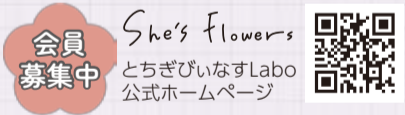


家業の跡継ぎや結婚など、女性の就農理由はさまざま。女性農業者の横のつながりをつくり、個性や能力を発揮できる環境づくりが重要です。

女性農業者を 応援！



この事業では、県内女性農業者がつながり、学び成長できる機会を増やすことで、地域農業をリードする女性経営者となれるよう、主に3つの取組で支援します。



1 つながる

フォーラム・交流会を開催
県内の女性農業者や農業関連事業者とのつながりをつくり、交流を通し、「こんな作物や商品を作りたい!」という新たなビジネスの“芽”を育てます。

2 学ぶ・成長する

セミナー・研修機会の提供
雇用・労務管理やマーケティングなど、農業経営に必要な基礎知識を学びます。
グループのトライアル活動を支援
試作や販売等を通じ、新たなアイデアを実現できるかどうか試験・調査します。

とちぎ女性農業者フォーラム

3/2(水) 時間 午後1時~3時30分
場所 栃木県総合文化センターサブホール
(有)貫井園 貫井 香織氏による基調講演
「農業とSDGs」と題した、女性農業者によるパネルディスカッション
※開催方法等は変更になる可能性があります

3 発信する

HP・イベント等で魅力発信
生き生きと活躍する女性農業者の姿を発信。「新たに農業を始めたい」「経営に携わってみたい」という女性の増加を図ります。

県内で活躍する女性農業者に聞いた わたしこんなチャレンジをしています!

にしおか ともこ 西岡 智子さん
momo farm代表。米農家に生まれ、養護教諭として働いた後、跡継ぎとして就農。農業の魅力を感じて続けている。農業者しか見られない奇跡の瞬間や風景に出会えることも。農業をやりながらほかの仕事もできる、一番自由な職業ではないかと思えます」と語ります

人脈を広げてさまざまなことに挑戦
有機質肥料を用い、土作りからこだわった米を通常の流過程に乗せるだけではもったいないと思い、展示会・商談会に積極的に参加。人脈も広がり、通信販売やマルシェなどを通じてより多くの人に食べてもらえるようになりました。また、パティシエの妹と考案した米粉のおやつも大好評。さらに、「自分で作った米のお酒が飲みたい」と思っていたところ、県内酒造会社の方と出会い、女性向けの日本酒の企画に携わることができました。今度はみりん作りにも挑戦したいです。

ほうじと さちこ 寶示戸 幸子さん
寶示戸農園を夫婦で営む。結婚後も会社勤めを続けていたが、野菜農家である夫の仕事の手伝いを機に就農。「農業は、こうしてみたい、やってみてみたいが実現できるところが魅力。自由になる時間が多くなり、子どもたちと触れ合う時間も増えた。毎日が充実しています」と語ります

脇役扱いのパセリを魅力あふれる商品に
添え物・脇役のイメージが強いパセリですが、実は栄養満点。とちぎ農業女子プロジェクトのイベントでレストランのシェフがパセリでドレッシングを試作してくださいました。これが仲間内で大好評。「パセリがおいしいドレッシングになるんだ!」とびっくり。その後改良を重ね、商品化に至りました。スナップえんどうもピクルスにして販売。2品は野木ブランドの認定を受け、ふるさと納税の返礼品にも選ばれています。最近、乾燥機を借りて新たな加工品を考案中。案は次々浮かんでくるので、一つひとつ実現できればいいなと思います。